

埼玉県租税教育推進協議会長賞

私が税について考えること

熊谷市立妻沼西中学校 三年 杉山 亜利沙

そもそも税金は、誰のために、また何の目的で作られた制度なのか。この疑問の答えをいっただれほどの人が理解しているのだろうか。それは、私達日本国民一人一人の社会生活をより快適で安全なものにするために作られた制度なのである。そう考えると、納税の義務の重責を担っている私達は、もう一度この税についてをしっかりと考え直して、関心を持つべきだと私は強く思う。そこで、私の知識の中での税金を思い浮かべてみた。消費税、所得税、固定資産税、自動車税、市・県民税、国民健康保険税など、これらは全て国や地域、そして国民のために貢献できるよう、社会人一人一人が納めている大切なお金であるということがわかったのだ。この中で私が一番身近に感じられる消費税は、高齢者から小さな子供までの幅広い世代の人達が関わったことのある税金である。その事は、百円で買える品でも消費税を加えると百五円を支払うことになるのは、当然のように誰もが感じていることから伺える。これほど税金は、私達の暮らしに浸透しているのだ。そして、この税金こそが、やがて高齢者の老後の生活を維持するための一つのかてとなる年金となり、また私達学生の教育に必要な費用となるのだ。そして更には、事故や災害時の緊急を要するときに、警察官や救急隊に出動依頼をするなど、多様に有効利用される租税としての納付金であるのだ。このことから、社会の中ではお互いに支えあう生活でなければならないのだと、この税金の制度を学んで、改めて考え方が変わったように思う。しかし、現実はどうだろうか。近頃は、税金を自分勝手な考えから、滞納している人が増加している傾向にあると言われている。その滞納者は、いったい税金をどう考えているのだろうか。もう一度、税金の本来の役割をきちんと見直すべきなのではないだろうか。私達が毎日通っている道路や、生活において多量に出る生活ゴミの処理費などは、納税者が賄っているのだということも、決して忘れてはならないことである。また、それと同時に、自分をふくめて国民すべての生活に平等に形を変えて、反映されている事実にも気づかなければならないと私は思う。そして、こうした税金の大切さを知った上で、国や地方自治体にも、一円でも無駄にしないという、正しい税金の使い方をしてほしいと強く願うばかりである。未来の納税者達の一人になる私自身も、数年後には社会人として納税をして、社会に貢献したいと思っている。